粕谷和夫の観察日記。八王子では、「彫刻のまちづくり」を進めています。片倉城跡公園には昭和５４年に日彫展に新設された特別賞「西望賞」の受賞作品がいくつか野外展示されています。この写真は「酔っぱらい」という坂胆道の作品。第３回西望賞受賞と説明。季節は夏、この作品の前に自生と思われるキツネノカミソリ２株が咲いていました。

紅葉台 新聞

第９５号
２０２３年
９月１６日
発行人：関谷孝

アジア青年会と国際交流　　徳田陽平さん

八王子のオクトーレ１１階に国際協会があります。市内には大学・短大・高専が２１つあり、外国からの留学生や仕事、観光などで訪れる外国の人がいます。市内の外国の人の人口は１３０００人。特にベトナム、ネパールの人が多く、１００余の国籍の人がいます。【写真中央・徳田さん】

そのため徳田さんは、１９９７年 IFC（国際親善協会）に参加し、事務局長や副会長として国際交流に活躍していました。そこでは、外国の人たちに日本語の勉強を教えたり、パーティーで親睦を図ったり、生活面でのサポートをしたりしました。

しかし、２００４年「アジア青年会」を立ち上げ、外国の人たちの主に生活面を支える活動に力を注ぐことにシフトします。その思いを抱く直接のきっかけは、２００４年１２月２６日に起こったインドネシア西部スマトラ沖地震です。マグニチュード９．３の大きな地震で大津波にビーチが飲み込まれていく映像をテレビで見た方もいるのではと思います。映画にもなりました。その後、対岸のスリランカ等にも大津波が反動で押し寄せ大きな被害をもたらしました。徳田さんはスリランカの友人のためにカンパ活動をし、これからは困っている人たちを助けたいという思いが湧き出て、そのためにも新たな活動をしようと思いました。

しかし一番の要因は、実の息子さんの闘病が大きかったとのこと。息子さんは、ウクライナのキーウ大学に留学に行き、学んだことを生かして北海道の役所で通訳として働いていました。北方領土の交渉にロシア語が役に立つと考えたからです。しかし、その思いも道半ばで白血病に倒れました。父親として深い悲しみと共に若干３３歳で亡くなった息子の遺志を生かしたいとの強い思いが自分を支えたと言います。今になって思えばチェルノブイリ原発事故の後でボランティア活動をしていたので、そのことが原因ではないかと後に悔やまれました。本当に胸の詰まる話でした。深い悲しみの中から息子さんの退職金等を基金として立ち上げたのが「アジア青年会」です。

これまで２０年間にわたって外国の人たちの生活支援をしています。例えば、自転車のリサイクル、アルバイトの紹介、英語・日本語・フランス語・中国語などの学習指導（５００円／１時間）による生活支援。引っ越し手伝い。スピーチコンテスト。徳田さんは、休みの日には、引越しの手伝いにも行きます。もう８２歳と言っていましたが、毎日とても忙しくしています。人の名前もよく覚えているのにびっくりです。

世話をした外国の人たちが苦労してお店を持ち繁盛する様子を知るのがうれしい。八王子市役所前のカレー店「サンガム」は日野市を含め５店舗に拡大しました。何年たってもつながりが出来て訪ねてくるのもうれしいこと。「これまでたくさんの人と出会って自分が生きていてよかったと心から思える」と話していたのが印象的でした。そして、「日本に来てよかったと思って帰国してほしい」とも。日本は外国の人にとってまだまだ住みずらいところです。労働環境も住宅事情も十分とは言えません。これから多様性を重んじ世界の人と暮らせる社会になるためにも公的な支援や仕組みを作っていく必要性があります。徳田さんはそんな大変な中でも自分の使命を感じて明るく前向きに頑張っています。余談ですが徳田さんのお父さんは戦時中に戦争反対の信念を曲げなかった強い意志を持って生き抜いた人。お母さんは、当時カナダに留学に行って英語を学び、日本で教えていたそうです。そのご両親の姿を見て自分も人のために働くことの大切さを学びました。実の姉はホキ・徳田さん。文豪ヘンリーミラーと結婚したジャズピアニストです。家族から得た生き方が今の自分をつくっていると実感するそうです。（文責関谷）

粕谷和夫の観察日記

キツネノカミソリ（左）とヤマユリ（右）

暑い中、町田市と八王子市の境界にある権現谷戸を歩きました。里山の夏を代表する花キツネノカミソリとヤマユリが開花中で、この花に元気をもらいました。

粕谷宅の庭のオニユリの花に**ナミアゲハ**が吸蜜に来ていました。カメラを構えていると、鉢植えのレモンに移動し産卵を始めたようです。

アサザ

八王子市宇津貫の調整池のアサザが見事な花を咲かせてくれました。スイレンに似た切れ込みのある葉を水面に浮かべ、キュウリの花に似た黄色い花を咲かせます。日本各地でアサザが絶滅の危機に瀕していますが、ここでは毎年増え続けています。

紅葉台新聞は、「高尾フモト同盟」の HP に公開されています。高尾の情報や働く人たちが紹介されています。興味を持った方は、覗いてみてください。また、皆様からの情報や投稿もお待ちしています。